

2026年3月期 決算説明会資料

YUSHIN

スタンダード市場 証券コード6482

2026年5月18日

YUSHIN株式会社

2026年3月期業績

- 売上高 : アジアでの取出口ロボット、国内でのパレタイジングロボット等の販売が増加した一方、
メディカル関連特注機の売上の大幅な減少により**減収**
- 営業利益 : 売上高の減少と原材料価格の高騰に加え、いずれも中長期的な成長を見据えた
積極的な人財投資による人件費の増加や、開発投資に伴う研究開発費の増加などの影響を受け**減益**

2027年3月期予想

- 売上高 : 中東情勢などにより先行き不透明な市場環境が継続するものの、AI関連、メディカル関連特注機、
パレタイジングロボットなどの需要伸長を見込み**増収予想**
- 営業利益 : 増収予想とコスト削減・生産性向上の取組みにより**増益予想**

トピックス

- 2026年3月期の年間配当は**20円**を維持
- 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、**自己株式取得を実施** (2025/11~2026/2)
- コーポレートガバナンス・コードに基づく**政策保有株式の縮減** (2026/3)

	2025/3	2026/3	
	金額	金額	伸び率
売上高	百万円 26,126	百万円 23,101	% △11.6
売上総利益 (売上総利益率)	10,766 41.2%	9,051 39.2%	△15.9
営業利益 (営業利益率)	2,586 9.9%	826 3.6%	△68.0
経常利益 (経常利益率)	2,535 9.7%	908 3.9%	△64.2
親会社株主に帰属する当期純利益 (純利益率)	1,692 6.5%	286 1.2%	△83.1
<為替レート> 米ドル/円	152.58円	150.77円	

売上高

前期比11.6%減の23,101百万円

ロボットは前期比 **3.0%**増

- +**
 - 中国を中心に**アジア**での売上が堅調
 - パレタイジングロボット**の販売が伸長
- - 米国政策動向の不透明さ**による設備投資意欲の低下
 - 欧州における**景気低迷の長期化**

特注機は前期比 **54.0%**減

- **メディカル関連大口案件**の売上が前期比大幅減
- +** 主に日米欧において人手不足による**自動化需要の増加**

営業利益

前期比68.0%減の826百万円

- - 売上高の減少
 - エネルギー・原材料価格**の高騰
 - 積極的な人財投資**に伴う人件費の増加
 - 開発投資**に伴う研究開発費の増加

	2026/3	2027/3 (予想)	
	金額	金額	伸び率
売上高	百万円 23,101	百万円 25,000	% 8.2
売上総利益 (売上総利益率)	9,051 39.2%	9,600 38.4%	6.1
営業利益 (営業利益率)	826 3.6%	1,300 5.2%	57.3
経常利益 (経常利益率)	908 3.9%	1,300 5.2%	43.1
親会社株主に帰属する当期純利益 (純利益率)	286 1.2%	900 3.6%	213.8
<為替レート> 米ドル/円	150.77円	145.00円	

売上高

前期比8.2%増の25,000百万円

ロボットは前期比3.7%増

- + AI関連需要が堅調
- ・ パレタイジングロボットの販売が伸長
- ・ グローバルでのシェアアップ
- 中東情勢などによる先行き不透明な市場環境

特注機は前期比42.3%増

- + メディカル関連大口案件の売上が復調
(下期以降の売上寄与を見込む)
- ・ 人手不足による自動化需要の継続

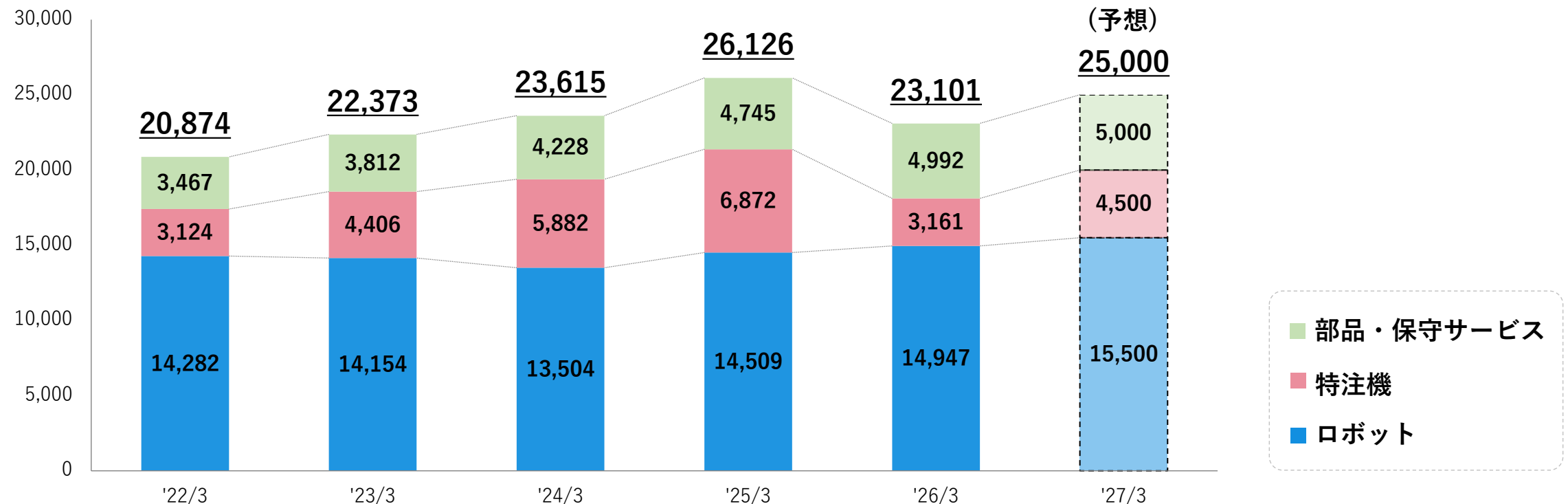
営業利益

前期比57.3%増の1,300百万円

- + 売上高の増加
- ・ コスト削減・生産性向上の取組み成果の顕在化
- エネルギー・原材料価格の高騰
- ・ 積極的な人財投資に伴う人件費の増加

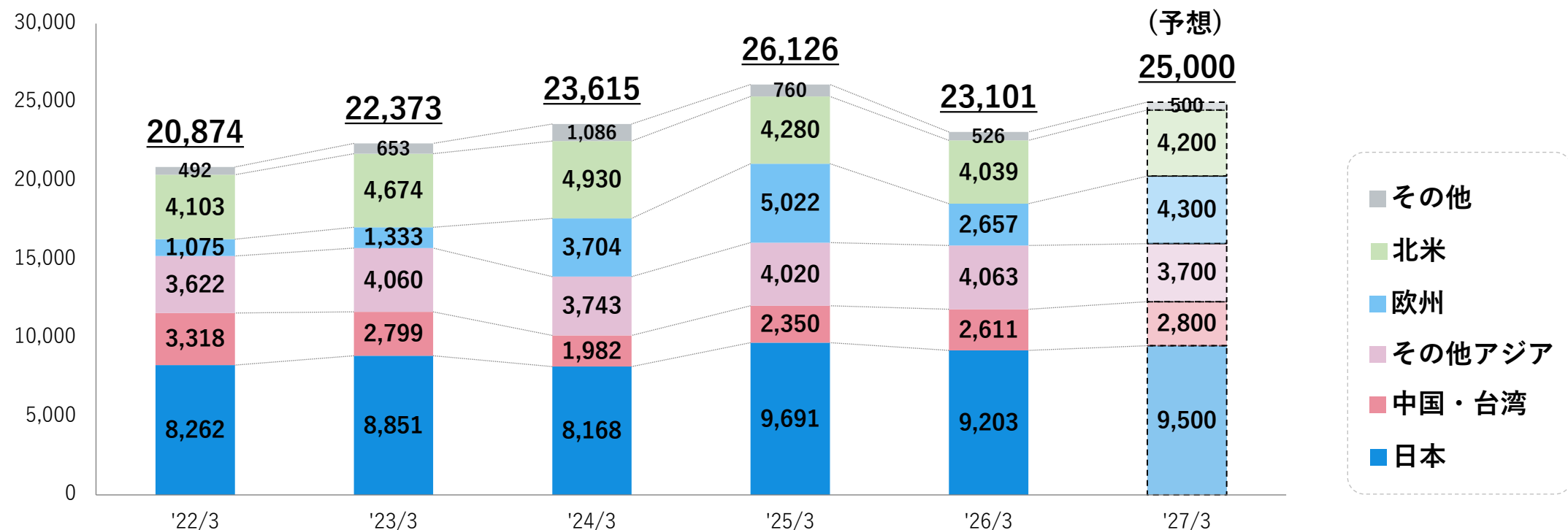
- '26年3月期は、**メディカル関連特注機**の売上が大幅に減少した中、**ロボット**の販売は堅調に推移
- '27年3月期は、**パレタイジングロボット**を含む各種ロボットの堅調な販売に加え、**メディカル関連特注機**を含めた**特注機**の伸長を見込む

売上高 (百万円)



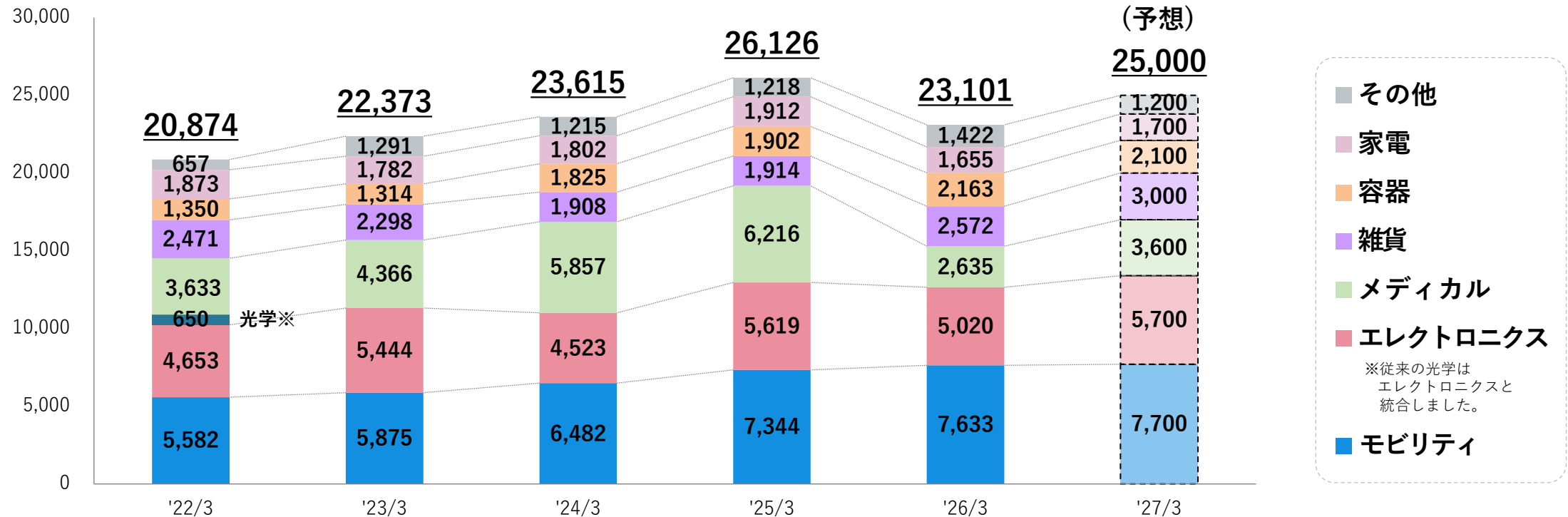
- '26年3月期は、中国を中心にアジアでの売上が比較的堅調であった一方、欧米においては設備投資意欲の低下とメディカル関連特注機の減少が売上に影響
- '27年3月期は、日米中が堅調に推移するとともに、欧州においてもメディカル関連特注機の需要回復を見込む

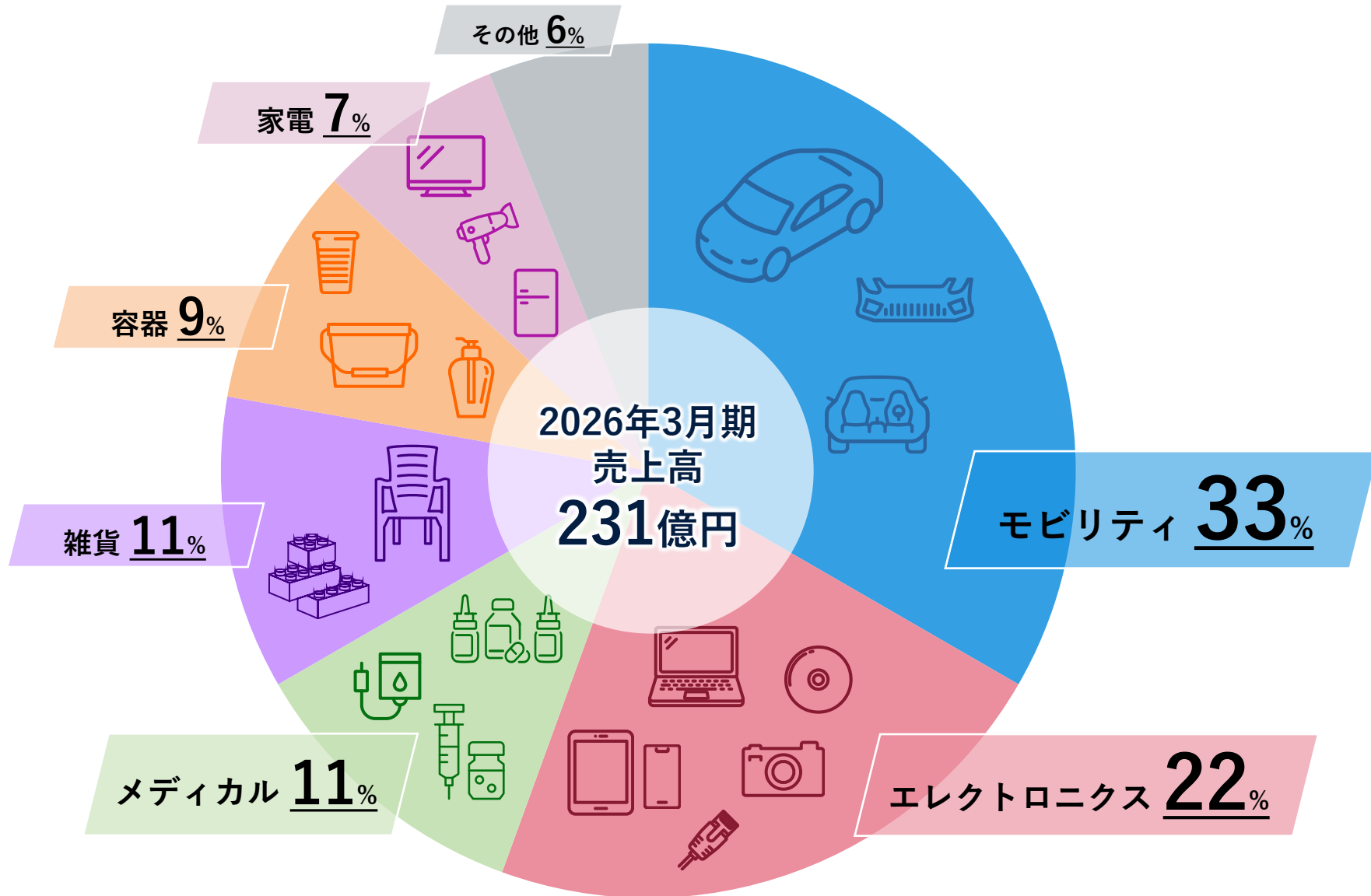
売上高 (百万円)



- '26年3月期は、**メディカル関連**における売上が大幅に減少
- '27年3月期は、**メディカル関連**の需要回復に加え、**AI関連需要**によるエレクトロニクス分野の伸長を見込む

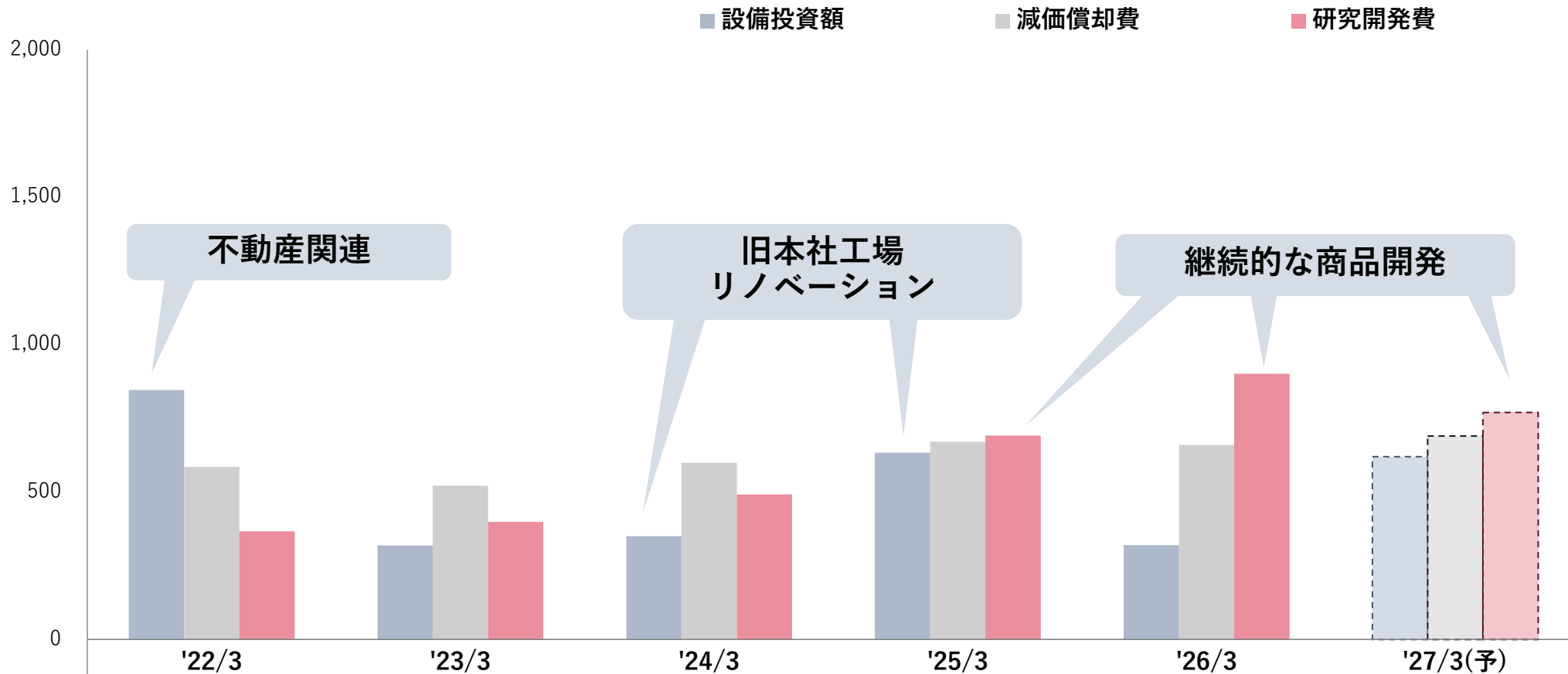
売上高 (百万円)





設備投資額・減価償却費・研究開発費

(百万円)



■ 設備投資額	846	319	350	634	320	620
■ 減価償却費	585	521	599	671	660	690
■ 研究開発費	367	399	492	692	901	770

経営理念

我社は人間尊重を基本として、公正かつ健全な「力と知恵と勇気」をもって行動し、信頼される会社として歩み続けます。世界に向けて常に革新ある技術を創造し、広く社会に貢献します。我々仲間は一致協力して社業の発展に尽くし、心豊かな生活を得ることを目指します。

目指す姿

お客様に喜ばれる商品とサービスを提供し、信頼される会社
事業活動を通して、社会に貢献する会社
やりがいを持って安心して働ける会社

基本方針

お客様を取り巻く社会課題・環境変化の解決

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として「労働安全性の強化」、「お客様工場の生産性向上」、「気候変動への対応」を設定し社会課題解決や環境変化の解決に向けた取組みを進めてまいります。

ステークホルダーの経済価値創出

自動化機器の提供を通じた顧客企業の利益創出、サプライヤーとの双方向のコミュニケーションによる共存共栄、株主価値向上等によりステークホルダーの経済価値の向上に取り組んでまいります。

経営基盤の強化

サステナビリティ経営の重要課題（マテリアリティ）として「人的資本の強化」、「コーポレート・ガバナンスの強化」を設定し中長期的な成長に向けた基盤づくりを強力に進めてまいります。

事業戦略

①

未来を切り拓く人財への投資

②

グローバル販売力の強化

③

商品力の強化

④

新規事業の開拓

経営目標

中期経営目標

連結売上高 **300億円**

※足元の事業環境を踏まえ、時期について見直しを行う
(2026年3月期：231億円)

長期的に目指す経営指標

・営業利益率 **15%以上**

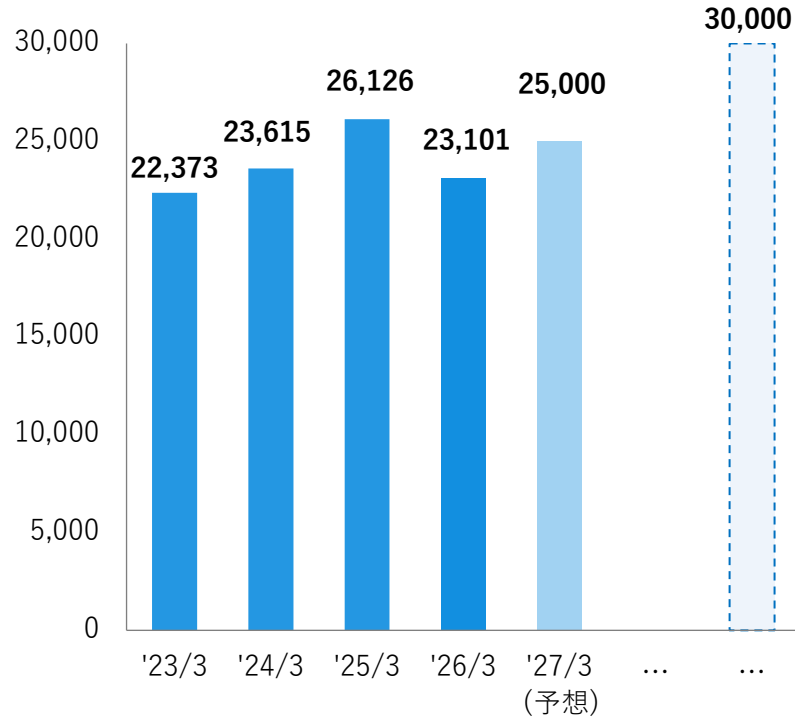
(2026年3月期：3.6%)

・ROE **8%以上**

(2026年3月期：0.8%)

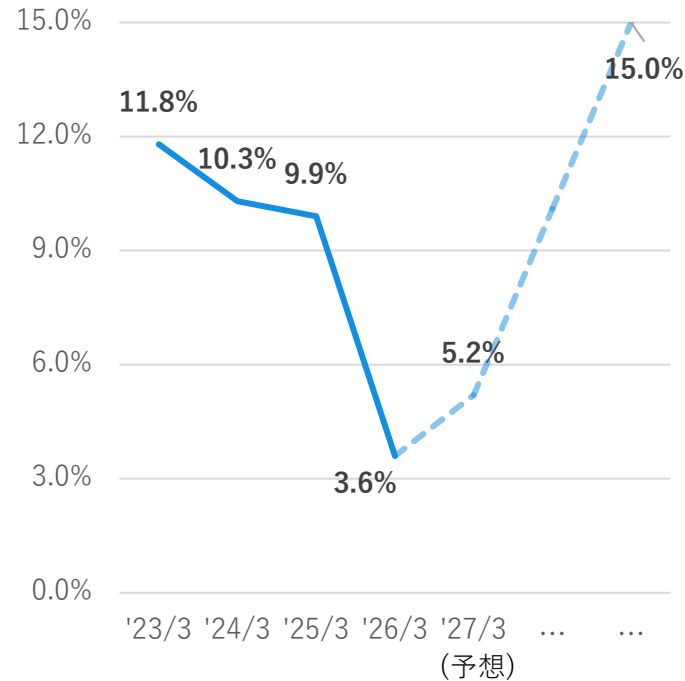
連結売上高

売上高 (百万円)



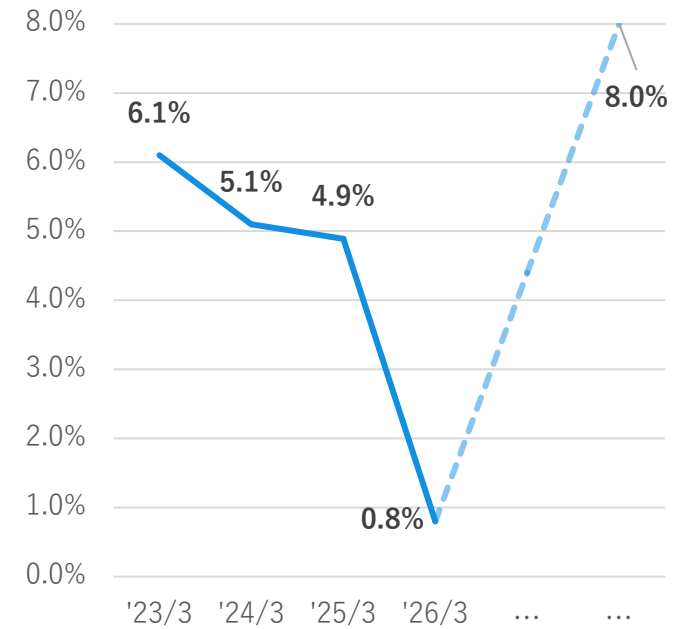
- ✓ 中期経営目標（連結売上高300億円）については、**足元の事業環境を踏まえ目標達成時期の見直しを行う**
- ✓ 各地域における**市場シェア拡大**の取組み推進、特注機の販売増により、目標の早期達成を目指す

営業利益率



- ✓ 直近は**中長期的な成長を見据えた先行投資と原材料価格の高騰**などの影響を受け、利益率が低下
- ✓ 先行投資を**早期に利益率向上の成果につなげる**

ROE



- ✓ 長期にわたって使用される設備機械をお客様に安心してお使いいただくため、**強固な財務基盤を維持**
- ✓ **中長期的な成長を見据えた先行投資**の効果により向上を図る
- ✓ 自己株式取得 (2025/11~2026/2)

企業理念の浸透を軸に、 人的資本強化の取組みを推進

- 「まず、想いとどく」をコンセプトに
CI・人財育成ポリシーを策定
- 多様な人財の価値観・考え方を活かした
組織づくり

キャリアのステージに応じた 階層別の教育制度の充実

- 技術研修 (eラーニングも整備)
- 次世代リーダー育成プログラム
- マネジメント研修

仕事のやりがい・ 働きやすさの向上に 向けた環境づくり

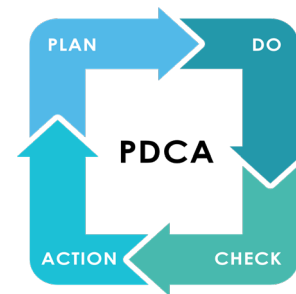
- 創造性・主体性を持った人財を養う
「イノベーションプロジェクト活動提案制度」

進捗

社内各部門の体制強化が進む。現在は、人財育成に重点を置き取組みを推進

人的資本強化方針

- ① コーポレート・アイデンティティ (CI) 活動の推進
- ② 理念浸透型の人事制度・人財育成ポリシーの整備
- ③ 人財の多様性の確保、ダイバーシティマネジメント
- ④ キャリアのステージに応じた教育制度の充実
- ⑤ 仕事のやりがい、働きやすさの向上などのための環境づくり



施策強化

お客様の想いに届き、
社会に貢献する
商品やサービスを
提供する

欧州を中心とした
グローバル市場での
シェアアップ

グローバル規格対応
(欧州安全基準の完全準拠商品の拡充)

世界各国のトップクラス
企業をターゲット

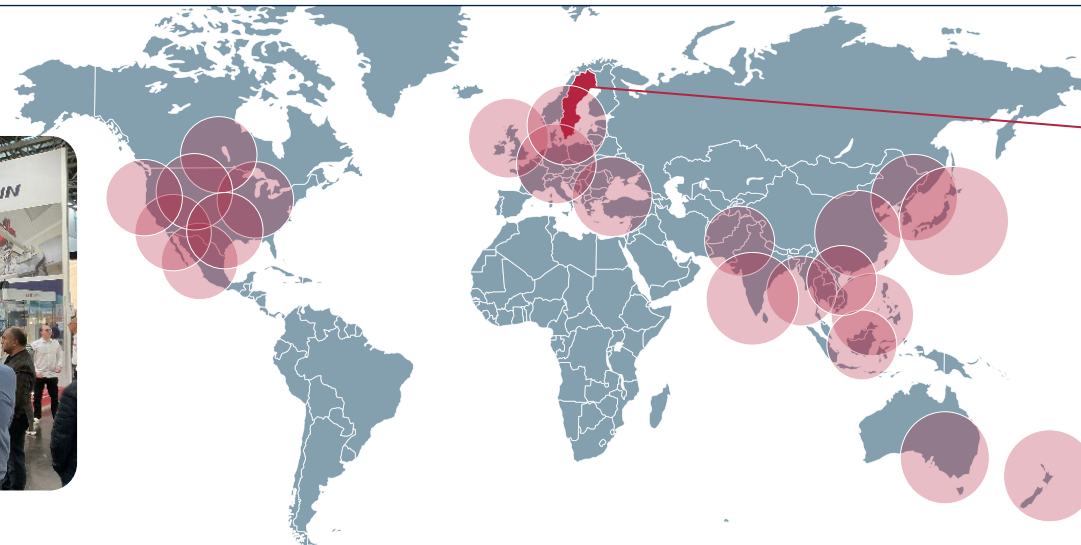
お客様が目指される
スマートファクトリー
構築への対応

進捗

WEMO社のグループ会社化による欧州販売力の強化
今後は、グループ間連携を一層推進



K2025 (2025年10月ドイツ)



Wemo Automation AB



2020年6月

パレタイジングロボット発売

低全高タイプ発売

2023年8月

2024年4月

2パレット仕様追加

- 食品業界などを主とした**新しいユーザー層**の獲得
⇒食品業界を中心に、モビリティやエレクトロニクス等の業界にもユーザーを広げる
- 製造業・物流現場の**人手不足**に貢献
- **直交型ロボットのメリット**を最大限に活かした**特長**により、お客様の幅広いニーズにお応えする
- 継続的な機能拡充による**商品価値の向上**

進捗

パレタイジングロボット発売以来、売上高は堅調に推移。

温室効果ガス排出量の低減に関する目標

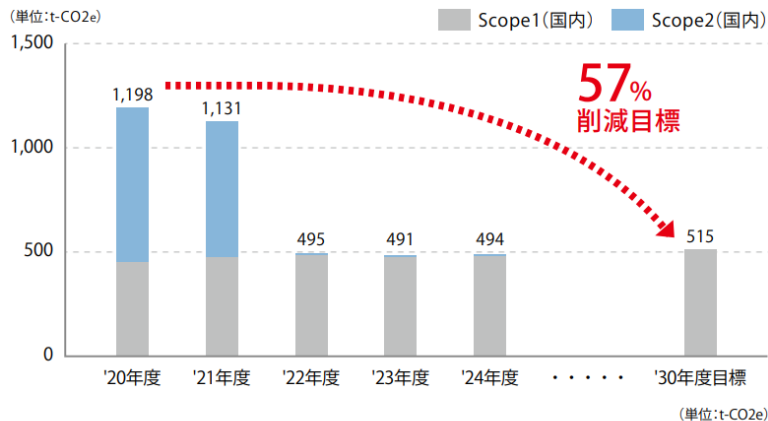
目標：2030年度末までに2020年度比57%削減

2030年度末までに国内のScope1・2（自社での燃料使用による直接排出量および自社が購入した電力や熱の使用による間接排出量）の合計を「2020年度比57%削減」することを目標としています。

目標達成のための施策

- 再生可能エネルギーの導入
- 環境配慮型自動車への段階的切替え（目標：2030年度末までに導入率77%）
- 電気自動車(EV)の導入

温室効果ガス排出量 (Scope1,2)



		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1	国内	456	480	493	489	492
	海外 ^{※2}	-	-	-	614 ^{※3}	688
Scope2	国内	742	650	2	2	2
	海外 ^{※2}	-	-	-	465 ^{※3}	491

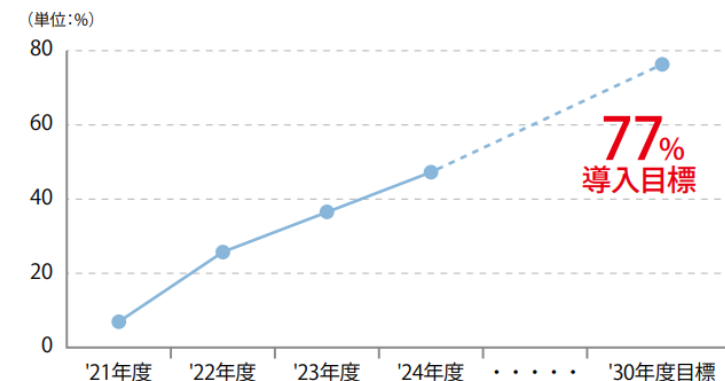
※2 海外拠点については、2023年度から算出を開始しています。

※3 海外拠点の2023年度実績について、WEMO社は9か月分みの算出です。

再生可能エネルギー由来の電力導入拠点



環境配慮型自動車導入率



01.

社会課題の解決に貢献できる
商品・サービス創出のための戦略投資

02.

長期視点での持続的成長の
実現に向けた投資

03.

機動的かつ持続的な投資に備え、
強固な財務基盤を維持しながら、
ステークホルダーの皆様のご期待に沿える取組みを推進



営業CF

手元資金



戦略投資

事業運営資金

株主還元

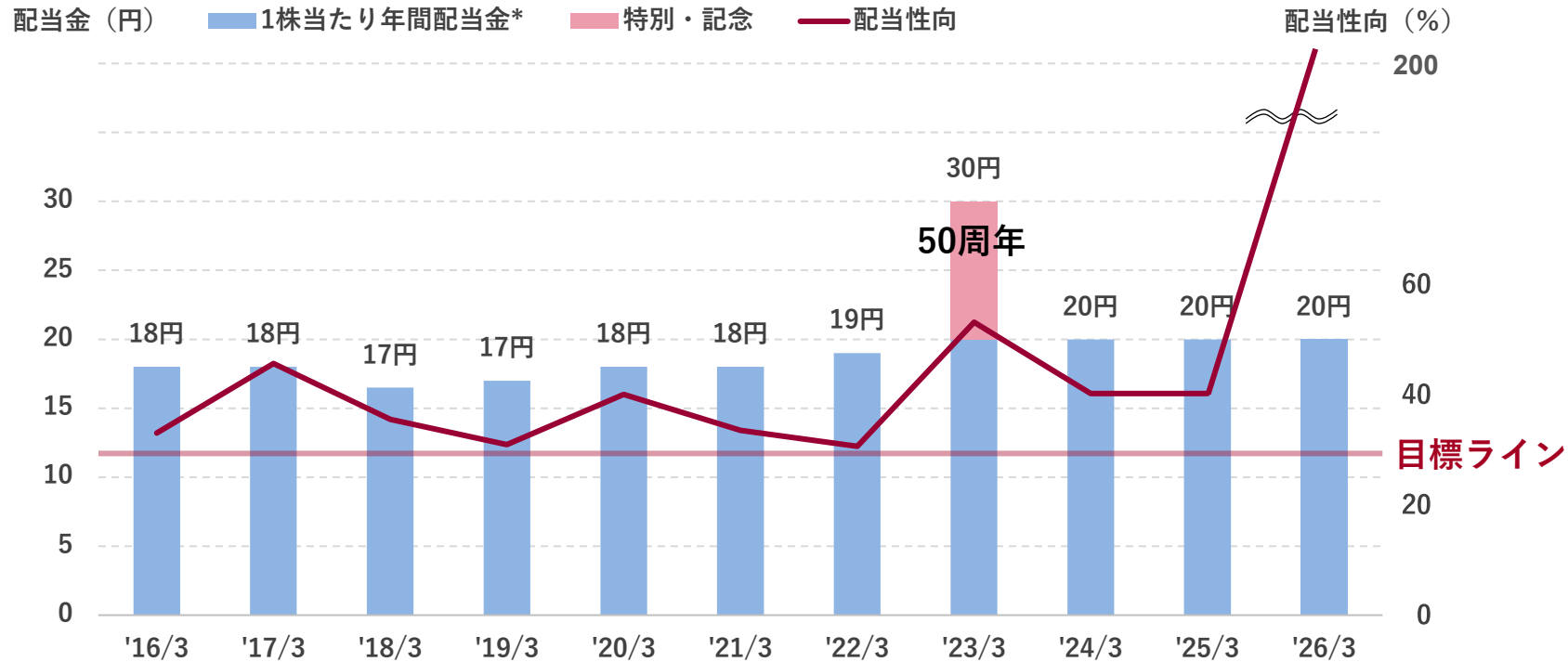
人的資本投資・研究開発投資

次世代成長投資・設備投資

増販による運転資金の増加
不測の事態への備え

配当（配当性向30%以上）
自己株式の取得

- 2026年3月期の年間配当は**20円**を維持
- 資本効率の向上および株主還元の充実のための施策として、**自己株式取得を実施** (2025/11~2026/2)



配当方針

- 1 **安定的かつ継続的な株主還元を実現するため、配当性向は30%以上を目標**
- 2 **連結業績の向上により、普通配当水準の引き上げを図る**

* 年間配当金は、2018年4月1日付の株式分割(1:2)後ベースに換算したものです。

参考資料

社名	YUSHIN株式会社
代表者	代表取締役社長 小谷 高代
設立	1973年10月
資本金	19億8,566万円
社員数	803人 (2026年3月末現在、連結)
連結売上高	231億円 (2026年3月期)
事業内容	産業用直交型ロボットを中心に 工場自動化に関連する装置・システムの開発、製造、販売
上場	東証スタンダード市場
証券コード	6482
売買単位	100株



技術力

- ・ 高速取出し
- ・ 省エネ
- ・ 提案力

幅広いユーザー層

- ・ 多様な販売先業種
- ・ グローバル展開
- ・ 新業界への進出

人的資本経営

これらの強みを生み出す
源泉となる
人的資本の強化に
注力しています

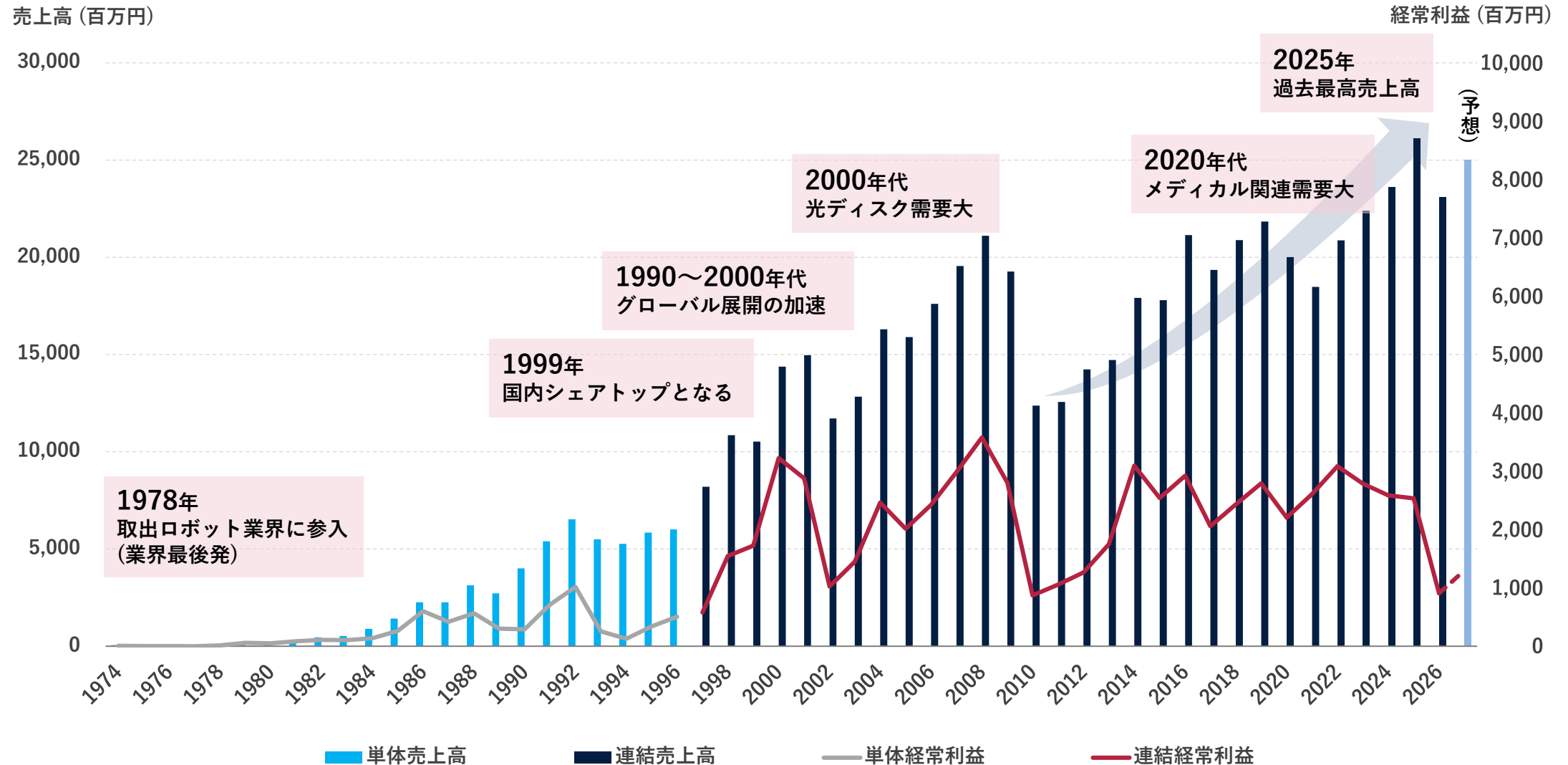
- ・ 業界トップシェア
- ・ 労働安全
- ・ サポート力

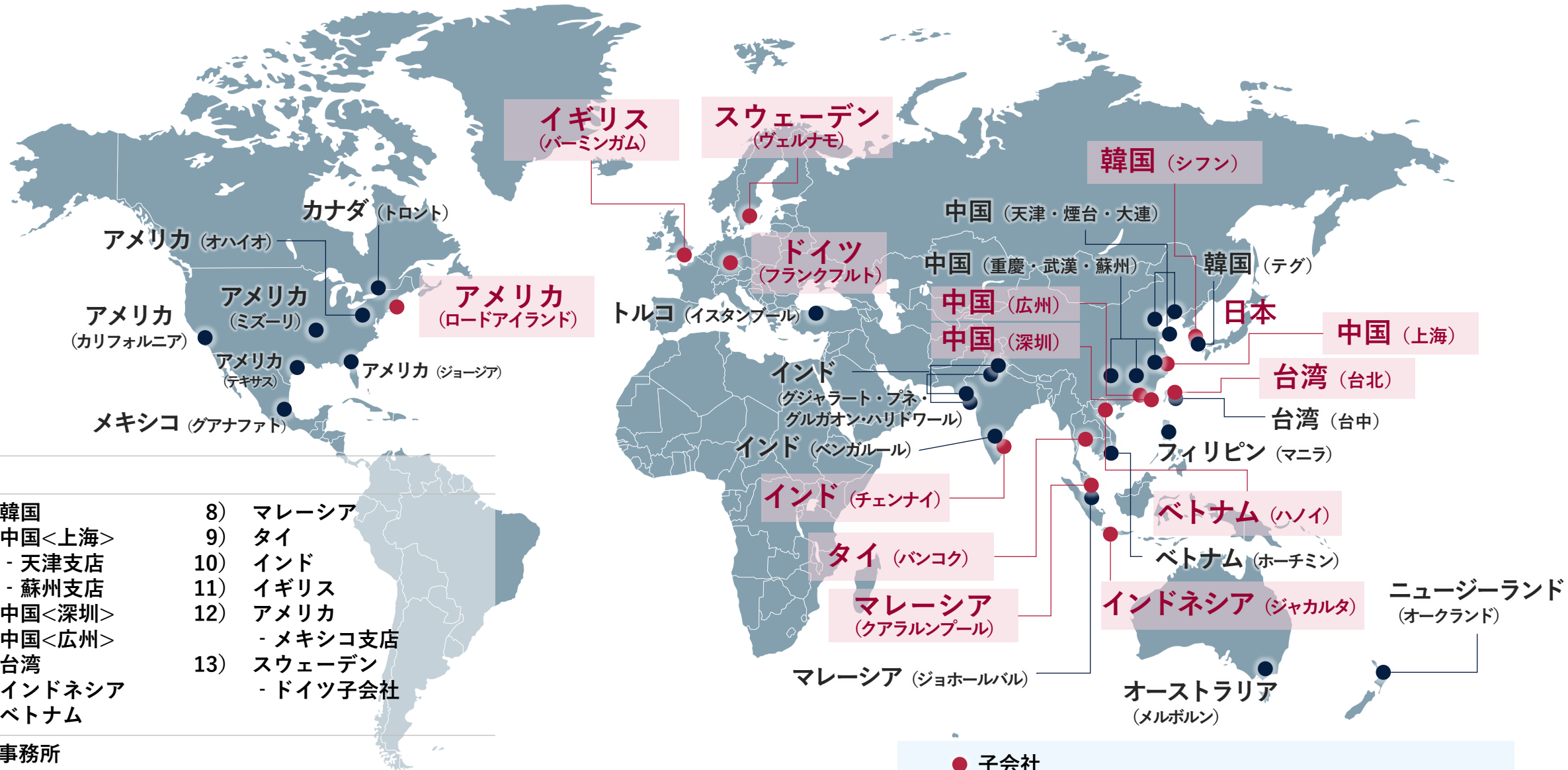
- ・ 強固なバランスシート
- ・ 高い自己資本比率
- ・ ファブライト

信用

財務体質

(参考) 業績推移





子会社

- | | |
|-----------|------------|
| 1) 韓国 | 8) マレーシア |
| 2) 中国<上海> | 9) タイ |
| - 天津支店 | 10) インド |
| - 蘇州支店 | 11) イギリス |
| 3) 中国<深圳> | 12) アメリカ |
| 4) 中国<広州> | - メキシコ支店 |
| 5) 台湾 | 13) スウェーデン |
| 6) インドネシア | - ドイツ子会社 |
| 7) ベトナム | |

駐在員事務所

- 1) フィリピン

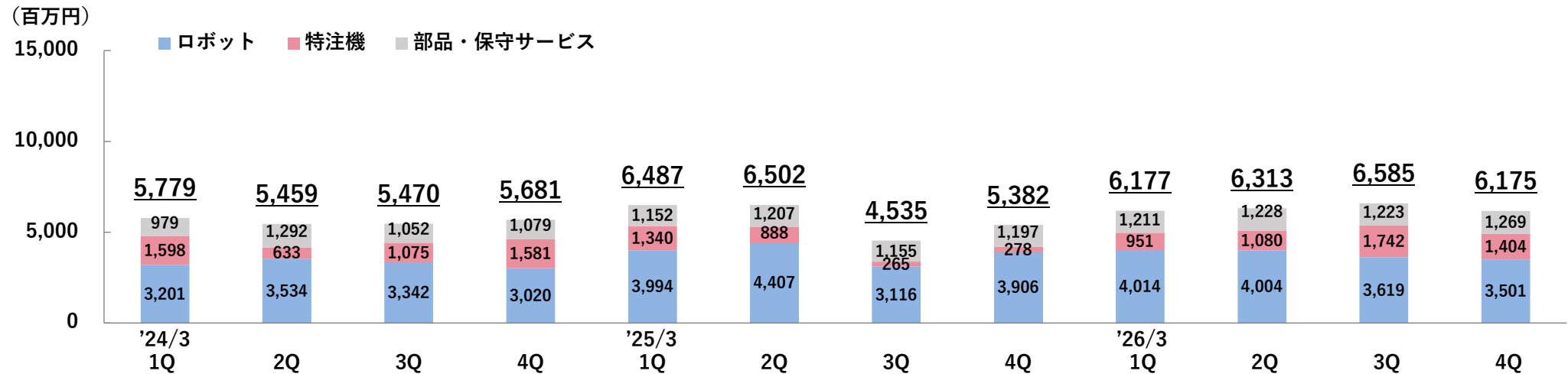
● 子会社

● 支店、駐在員事務所、サービス拠点、総代理店

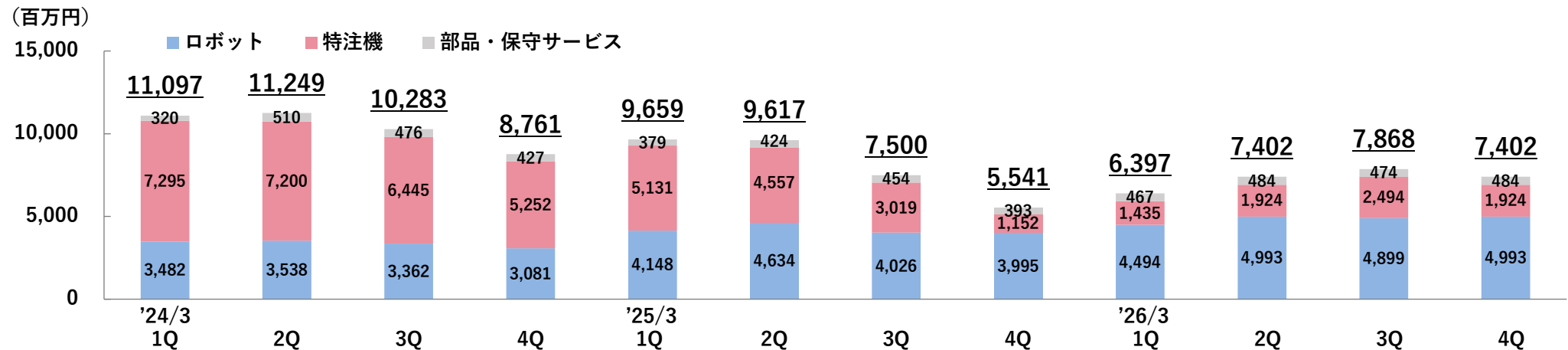
(参考) 受注高・受注残高推移 (四半期毎)

- 受注高は概ね**堅調に推移**、'26年3月期3Q以降は**特注機**において増加
- 受注残高は'25年3月期末を底に回復へ転じ、**特注機**の受注積み上がりを背景に、'26年3月期末には**前年を上回る水準まで回復**

受注高



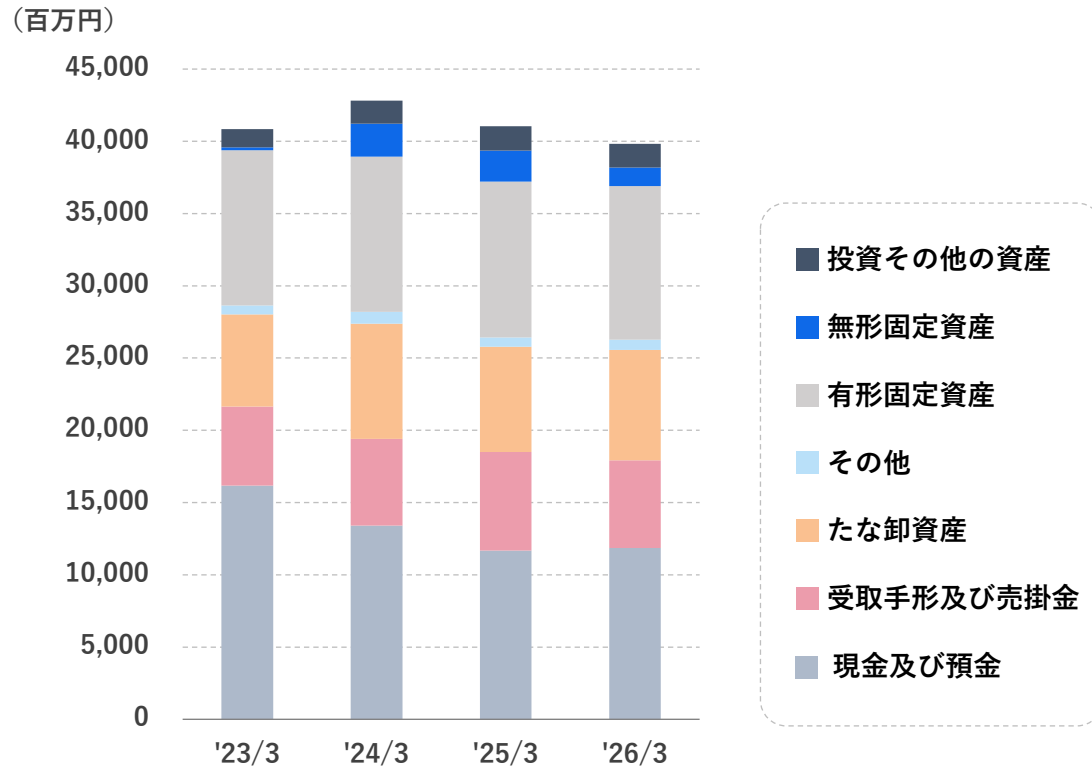
受注残高



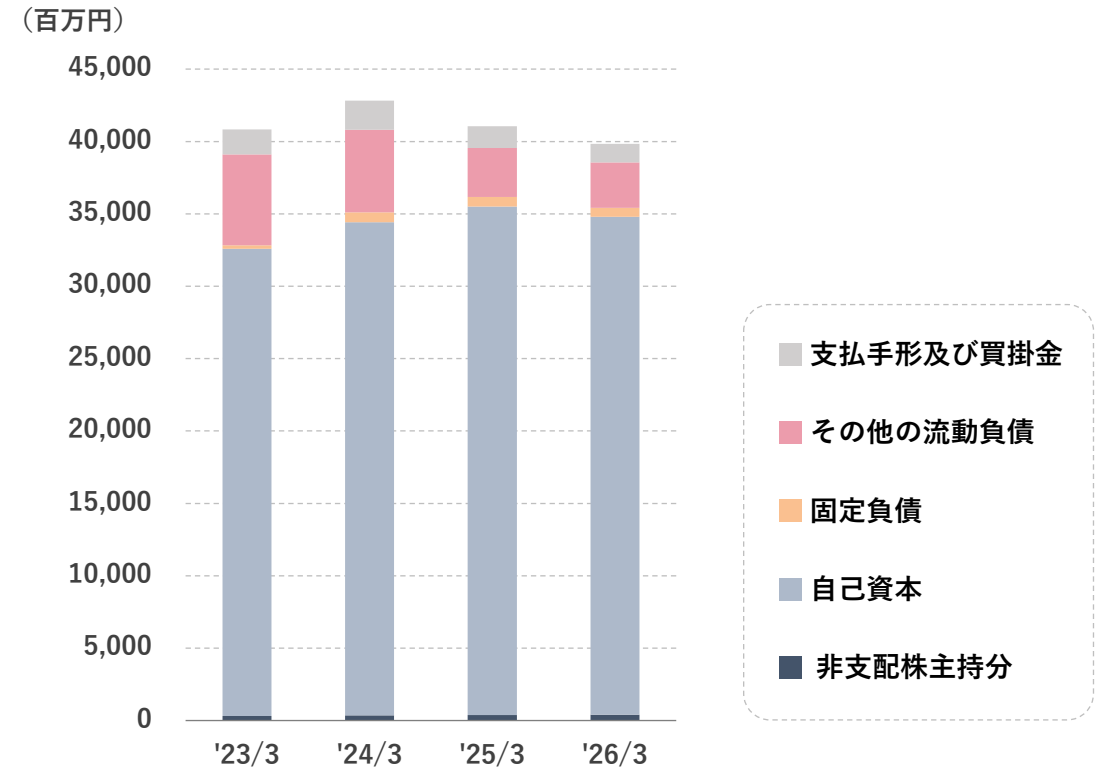
積極的な投資(WEMO株式取得/開発投資)や株主還元(自己株取得等)により現金及び預金が減少

高い自己資本比率、有利子負債ゼロにより財務基盤の安定性を維持

資産

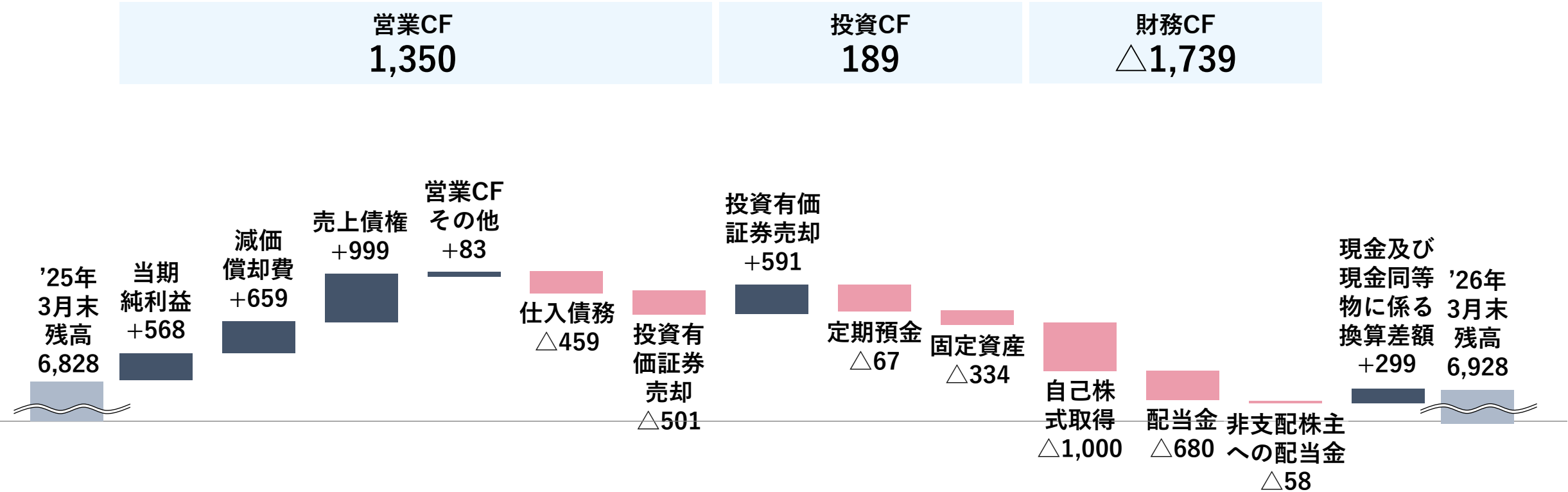


負債・純資産



(参考) キャッシュ・フロー(CF)分析・推移

主なキャッシュ・フロー分析 (百万円)



営業、投資、財務キャッシュ・フローの推移 (百万円)

	'21/3	'22/3	'23/3	'24/3	'25/3	'26/3
営業CF	3,487	2,083	4,605	119	△377	1,350
投資CF	△1,987	△1,341	△299	△2,519	△129	189
財務CF	△561	△763	△695	△1,070	△720	△1,739

ロボット

横走行タイプ

FRAシリーズ



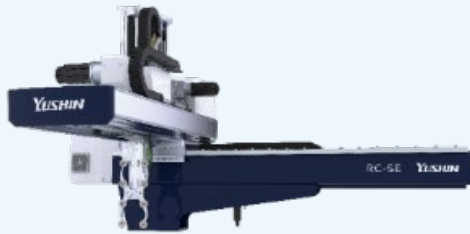
HSAシリーズ



HSTシリーズ



RC-SEシリーズ



YDシリーズ



SDシリーズ



スイングタイプ

HOP
シリーズ



サイドエントリータイプ

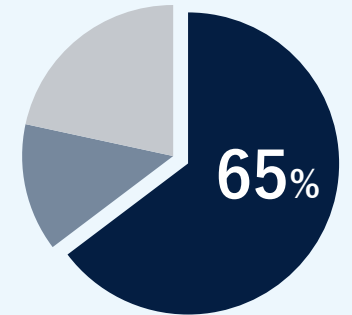
TSXAシリーズ



パレタイジング
ロボット



売上構成比



14,947百万円
(2026年3月期)

特注機

大容量タイプストッカ



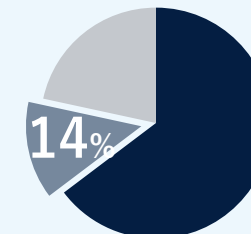
ゲートカットストックシステム



インサートワーク供給



売上構成比

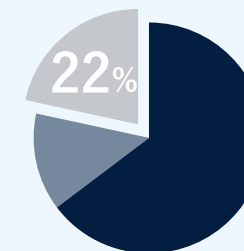


3,161百万円
(2026年3月期)

部品・保守サービス

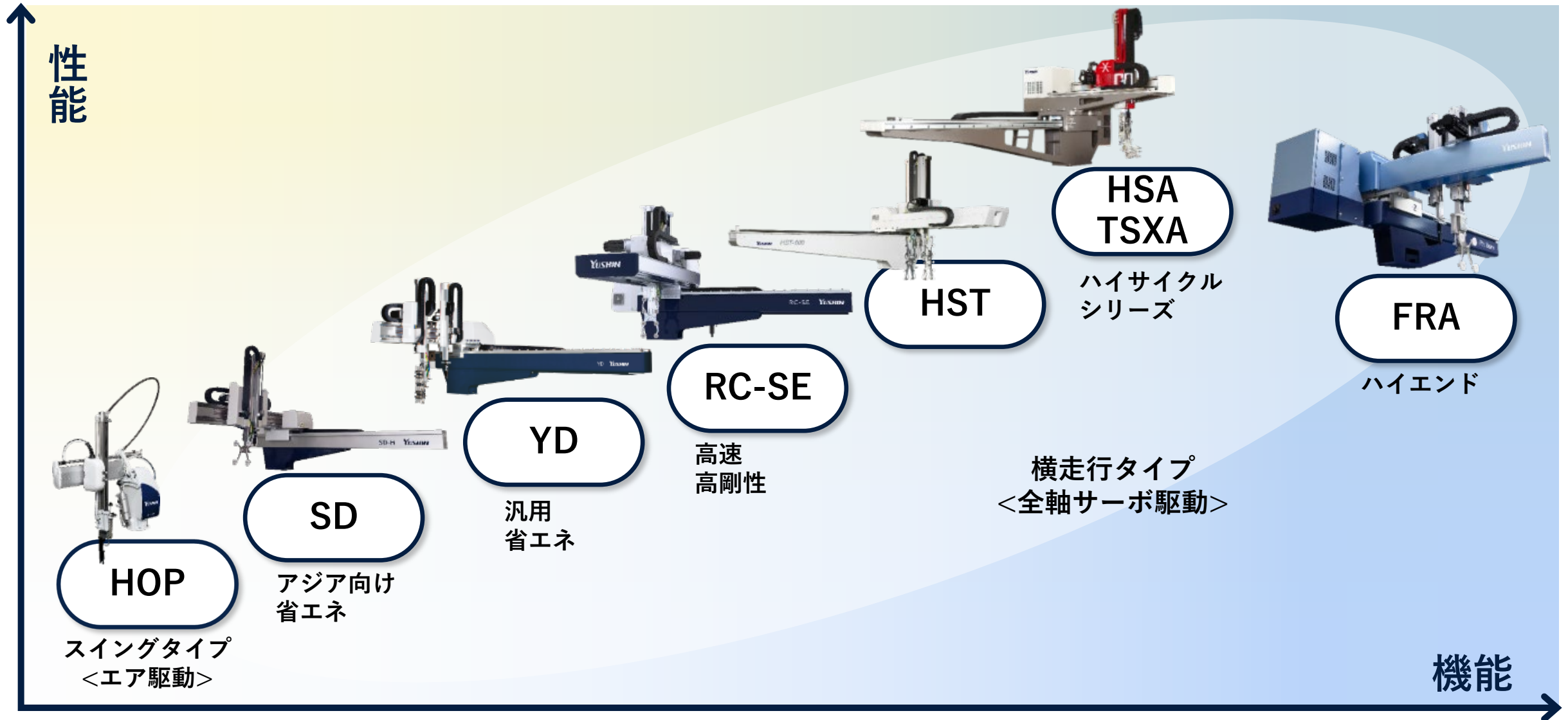


売上構成比



4,992百万円
(2026年3月期)

(参考) 取出口ボットの性能と機能



持続可能な社会の実現と中長期的な企業価値の向上に向けて、 5つのマテリアリティ(重要課題)を特定しています。

事業を通じた社会課題の解決



1. 労働安全性の強化
2. お客様工場の生産性向上
3. 気候変動への対応

< 主な施策 >

- ・安全性能を高めた商品の開発
- ・労働安全に関するスクール実施
- ・高速、高精度なロボットの開発、販売
- ・環境性能を高めた商品の開発

お客様と共に目指す SDGs項目

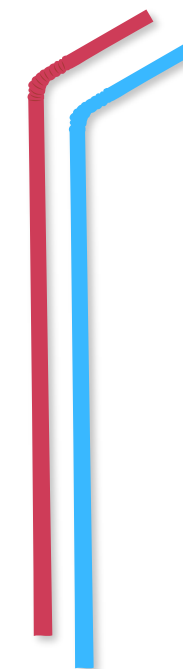
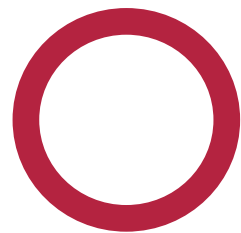


YUSHINグループの持続的成長に向けた経営基盤の強化



4. 人的資本の強化
5. コーポレート・ガバナンスの強化

- ・イノベーションが起こりやすい風土、環境づくり
- ・それぞれのライフステージに対応した継続的に働ける制度づくり
- ・コーポレート・アイデンティティ(CI)の浸透
- ・取締役会の機能強化
- ・指名・報酬委員会の実効性維持
- ・取締役会の実効性評価



(参考) 過去10年間の株価推移 (月足)





問い合わせ先：経営企画室

(TEL) 075-933-9555 (E-mail) IRinfo@yushincompany.jp

<https://yushincompany.jp>

IRサイトでは、説明会情報や各種資料を配信しています。

<https://ir.yushincompany.jp/ja/Top.html>

こちらからIRサイトにアクセスいただけます。→



注意事項：

本資料には、業績に関する将来予測の記述が含まれております。これらの記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により、実際の業績とは異なる可能性があることにご留意ください。

又、本資料は財務情報、経営情報等の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。

本資料の転載はご遠慮下さい。